



FROM JAPAN TO THE WORLD

TOKYO BASE

2026年1月期 1Q決算説明資料

2025年6月16日

AGENDA

2026年1月期	1 Q業績結果	・・・・・・・・・・・・・・・・	P3 – P12
2026年1月期	1 Q TOPICS	・・・・・・・・・・・・・・・・	P13 – P21

留意事項

※ 本ページ以後、STUDIOUSを「ST」、STUDIOUS TOKYOを「STT」、UNITED TOKYOを「UT」、PUBLIC TOKYOを「PT」、CITY TOKYOを「CT」、THE TOKYOを「TT」、CONZを「CZ」、RITANを「RT」、GOOD EDITIONを「GE」と略記（ST業態には「STT」を含む）

本資料には、現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。これら将来展望に関する表明のなかには、様々なリスクや不確実性が内在致します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。

本資料は、当社の株式の購入、売却等の投資を勧誘するものではありません。

また、各種データ等については細心の注意を払って作成しておりますが、記載情報の誤りや第三者によるデータの改ざん等、本資料に関連して生じる障害や損害について、その理由の如何に関わらず当社は一切責任を負うものではありません。

2026年1月期1Q 連結P/L実績 — Summary —

売上高

49.4 億円

前年比 103.6%

営業利益

3.7 億円

前年比 231.6%

経常利益

2.5 億円

前年比 106.0%

当期利益

1.8 億円

前年比 189.3%

- ▶ 売上総利益率が大幅良化したこと、海外事業が黒字化したことで、営業利益は前年比231.6%の増益
- ▶ 円高による為替差損（前年同期は差益発生）で、経常利益は前年比106.0%
- ▶ 中国事業の損失大幅減少で、当期利益は前年比189.3%の増益

2026年1月期1Q 連結P/L実績

(百万円)

	2026年1月期				2025年1月期	
	1 Q累計	構成比	前年比	前年差	1 Q累計	構成比
売上高	4,940	100.0%	103.6%	+170	4,770	100.0%
日本単体 ※1	4,560	---	103.2%	+ 142	4,418	---
香港単体 ※2	142	---	197.3%	+ 70	72	---
中国単体 ※3	238	---	66.0%	▲ 122	361	---
売上総利益	2,691	54.5%	113.7%	+325	2,365	49.6%
販管費	2,313	46.8%	105.0%	+110	2,203	46.2%
営業利益	377	7.6%	231.6%	+214	163	3.4%
日本単体 ※1	377	8.3%	134.7%	+ 97	280	6.3%
香港単体 ※2	26	18.4%	431.9%	+ 20	6	8.4%
中国単体 ※3	▲25	---	---	+103	▲129	---
経常利益	253	5.1%	106.0%	+ 14	239	5.0%
当期純利益	189	3.8%	189.3%	+ 89	100	2.1%

※1:株式会社TOKYO BASE（日本単体） ※2:TOKYO BASE HK LTD. ※3:東百国際貿易(上海)有限公司

海外事業が黒字化した

2026年1月期1Q 連結P/L実績 — 対前期増減要因 —

売上高 **49.4 億円** / 前年比 103.6% / 前年差+1.7億円

増収要因	日本実店舗の増収（既存店前年比108.7%）、店舗数65（前年+7店舗）	+5.5億円
減収要因	中国店舗減少による中国事業減収	▲1.2億円
	日本EC事業の構造改革減収	▲0.6億円
	ファミリーセール期ずれ（前期は1Q内で実施）	▲2.0億円

売上総利益率 **54.5 %** / 前年差 +4.9p（良化）

良化要因	日本の実店舗+EC粗利率の良化（粗利率：当期54.9%／前期53.5%）	+1.5p
	前期ファミリーセールのマイナス粗利影響（今期は前Q4実施済）	+3.9p
悪化要因	粗利率の高い中国事業の店舗数減少による売上減の影響	▲0.3p
	非連結子会社（NY、韓国）への卸売上による粗利率悪化	▲0.1p

2026年1月期1Q 連結P/L実績 — 対前期増減要因 —

販管費率 **46.8 %**／ 前年差 $\triangle 0.6\text{p}$ （悪化）

人件費	7.2 億円	前年差 +1.1p	新卒入社75名（前期差+30名）、契約社員の正社員化
地代家賃	7.8 億円	前年差 +1.0p	日本の実店舗売上増加による歩率家賃増
減価償却費	0.9 億円	前年差 $\triangle 1.0\text{p}$	中国店舗減少および減損による使用権資産の減少
その他	7.1 億円	前年差 $\triangle 0.4\text{p}$	EC関連費用の減少（販売手数料、配送費等）

営業利益 **3.7 億円**／ 前年比 231.6%

日本	3.7 億円	前年差 +0.9億円	実店舗売上/利益の増加、ファミリーセール期ずれ
香港	0.2 億円	前年差 +0.2億円	会計基準変更により日本単体利益減/香港利益増となる
中国	▲0.2 億円	前年差 +1.0億円	前期までの不採算店舗退店により収益性改善

経常利益 **2.5 億円**／ 前年比 106.0%

営業外損益	▲1.2 億円	前年差 $\triangle 2.1\text{億円}$	為替差損（今期▲1.2億円／前期+0.8億円）
-------	---------	------------------------------	-------------------------

2026年1月期1Q 販路別売上（店頭売上ベース）

- ▶ 日本事業はインバウンド成長による既存店増加に加え、新業態も順調で全体売上増加に貢献
- ▶ 中国事業は不採算店舗の退店が完了し、残る既存店舗は売上増加傾向と業績回復に目途

（百万円）

	1 Q 合計			1 Q 既存店合計		
	26年1月期	25年1月期	前年比	26年1月期	25年1月期	前期比
実店舗	4,253	3,828	111.1%	3,826	3,532	108.3%
日本	3,870	3,321	116.5%	3,443	3,168	108.7%
香港※1	142	144	98.7%	142	144	98.7%
中国	239	362	66.1%	239	218	109.6%
EC	710	769	92.3%	682	769	88.7%
その他 ※2	▲21	172	---	---	---	---
合計	4,940	4,770	103.6%	4,508	4,301	105.6%

※1. 香港は店頭売上基準（前期は決算上の香港法人売上高が業務委託収入であり店頭売上とは異なる）

※2. その他項目には、ファミリーセール等の売上および収益認識等の調整分を算入している。

2026年1月期1Q 業態別売上（実店舗のみ）

- ▶ 春物商品を抑制し夏物商品を充実させるMD変更により、1Qは少ない春物の条件で健闘した
- ▶ 自社ブランド事業はメンズが好調に推移した結果、各ブランドともに既存店前年比は二桁増加

（百万円）

	1 Q 合計			1 Q 既存店合計		
	26年1月期	25年1月期	前期比	26年1月期	25年1月期	前期比
セレクト事業	2,302	2,077	110.8%	2,016	2,006	100.5%
STUDIOUS	1,823	1,766	103.2%	1,737	1,696	102.4%
THE TOKYO	356	310	114.8%	278	310	89.7%
CONZ	91	---	---	---	---	---
GOOD EDITION	31	---	---	---	---	---
自社ブランド事業	1,950	1,751	111.4%	1,809	1,526	118.5%
UNITED TOKYO	1,105	967	114.3%	1,003	906	110.7%
PUBLIC TOKYO	622	636	97.8%	622	472	131.8%
CITY TOKYO	183	146	125.3%	183	146	125.3%
RITAN	38	---	---	---	---	---
合計	4,253	3,828	111.1%	3,826	3,532	108.3%

※ 連結ベース（日本、香港、中国）の実店舗売上合算値

2026年1月期1Q 業態別売上（ECのみ）

▶ 自社ECは108.6%と前年を上回る、なかでも自社ブランド事業は二桁増加と好調な推移

（百万円）

	2026年1月期 1 Q								
	自社EC			ZOZO			EC合計		
	26年 1月期	25年 1月期	前年比	26年 1月期	25年 1月期	前年比	26年 1月期	25年 1月期	前年比
セレクト事業	137	159	86.2%	224	290	77.2%	361	450	76.7%
STUDIOUS	106	125	84.8%	160	221	72.4%	267	347	67.1%
THE TOKYO	24	33	72.7%	45	69	65.2%	70	102	143.8%
CONZ	5	---	---	18	---	---	24	---	---
自社ブランド事業	142	97	146.4%	205	221	92.8%	348	319	109.1%
UNITED TOKYO	97	62	156.5%	122	123	99.2%	219	186	117.7%
PUBLIC TOKYO	34	30	113.3%	75	85	88.2%	109	116	94.0%
CITY TOKYO	7	4	175.0%	8	11	72.7%	15	16	93.8%
RITAN	3	---	---	---	---	---	3	---	---
合計	279	257	108.6%	430	511	84.1%	710	769	92.3%

2026年1月期1Q 店舗数増減

	25年1期	26年1月期					
	期末 店舗数	出店	退店	1Q末 店舗数	前期増減	期末見込 店舗数	今期 計画差
日本	75	4	0	79	+ 4	89	▲ 10
STUDIOUS	30	1	---	31	+ 1	32	▲ 1
UNITED TOKYO	17	---	---	17	---	19	▲ 2
PUBLIC TOKYO	10	---	---	10	---	11	▲ 1
CITY TOKYO	6	---	---	6	---	7	▲ 1
THE TOKYO	7	---	---	7	---	9	▲ 2
CONZ	4	---	---	4	---	6	▲ 2
RITAN	---	3	---	3	+ 3	3	± 0
GOOD EDITION	---	1	---	1	+ 1	2	▲ 1
(うちEC店)	(13)	(1)	---	(14)	+ 1	(15)	▲ 1
香港	3	---	---	3	± 0	4	▲ 1
中国	6	1	---	7	+ 1	7	± 0
連結会社合計	84	5	---	89	+ 5	100	▲ 11
米国	1	0	0	1	± 0	1	± 0
韓国	0	1	0	1	+ 1	1	± 0
非連結会社合計	1	1	0	2	+ 1	2	± 0

2026年1月期1Q 連結B/S実績

(百万円)

	26年1月期 (1Q末)	25年1月期 (4Q末)	前期差
流動資産	9,428	8,341	+1,087
現金及び預金	3,693	3,669	+24
売掛金	1,485	1,400	+85
商品	3,765	2,895	+870
その他	483	376	+106
固定資産	3,672	3,113	+559
有形固定資産	1,777	1,412	+365
無形固定資産	35	24	+11
繰延税金資産	60	108	▲47
差入保証金	1,488	1,350	+138
長期貸付金	133	144	▲11
その他	177	74	+103
資産合計	13,101	11,454	+1,646

	26年1月期 (1Q末)	25年1月期 (4Q末)	前期差
流動負債	5,922	4,761	+1,161
買掛金	2,143	1,244	+898
短期借入金	700	700	±0
一年内返済予定長期借入金	1,987	1,620	+366
短期リース債務	88	61	+27
未払法人税等	38	210	▲171
その他	947	923	+13
固定負債	2,150	1,585	+564
長期借入金	2,001	1,565	+435
長期リース債務	38	0	+38
資産除去債務	110	20	+90
負債合計	8,072	6,346	+1,726
純資産	5,028	5,108	▲79
資本金	623	623	±0
資本剰余金	607	607	±0
利益剰余金	4,036	4,063	▲27
自己株式	▲0	▲0	±0
その他	▲238	▲186	▲52
負債純資産合計	13,101	11,454	+1,646

2026年1月期1Q 連結B/S実績

資産 前期差+16.4 億円増

増			減		
商品	+8.7億円	4Q末(秋冬シーズン終了期)と1Q末(春夏実需期)の季節需要差			
有形固定資産	+3.6億円	新規出店による増加	-	-	-
差入保証金	+1.3億円	新規出店による増加			
未収消費税	+1.2億円	インバウンド免税売上高の増加			

負債 前期差+17.2 億円増

増			減		
買掛金	+8.9億円	4Q末(秋冬シーズン終了期)と1Q末(春夏実需期)の季節需要差	未払法人税等	▲1.7億円	納税による減少
借入金(短期+長期)	+8.0億円	出店強化に伴う資金需要及び既存借入金の借換			

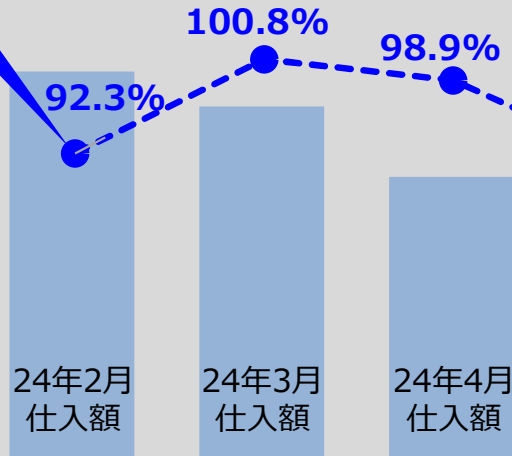
純資産 前期差▲0.7 億円減

増			減		
利益剰余金(内訳)	+1.9億円	当期純利益 +1.9億円	利益剰余金(内訳)	▲2.1億円	配当金の支払 ▲2.1億円
			その他	▲0.5億円	為替調整勘定 ▲0.5億円

2026年1月期1Q TOPIC — シーズンMDの見直し —

売上
前期比前期商品戦略
(春夏)

春物アイテム

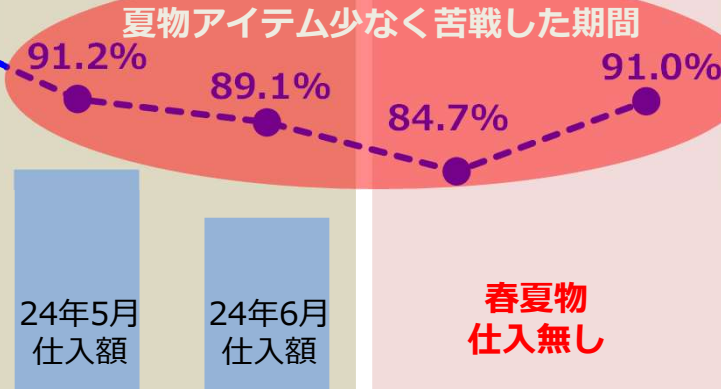


2月

3月

4月

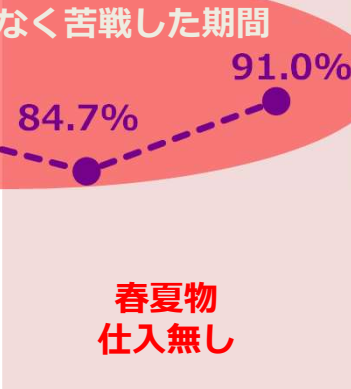
夏物アイテム

24年5月
仕入額24年6月
仕入額

5月

6月

盛夏アイテム

春夏物
仕入無し

7月

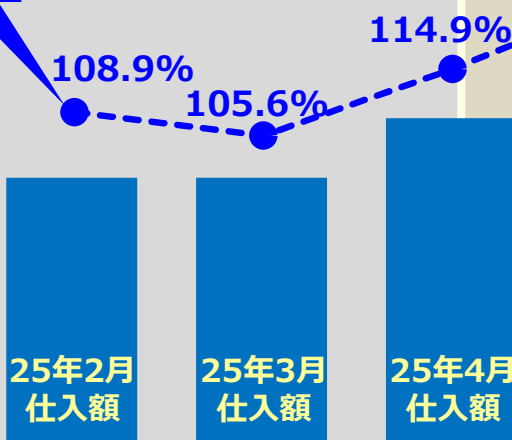
8月

25年1月期 (前期)

従来通りの春夏展開をした結果、気候変動による温暖化に対応できず夏場に商品と気候のアンマッチを起こした。
その結果、5月～8月の時期に大きく売上を落とした。

売上
前期比今期商品戦略
(春夏)

春物アイテム

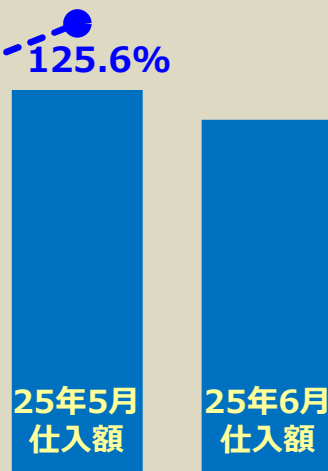


2月

3月

4月

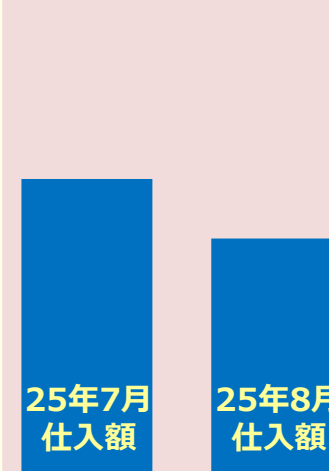
夏物アイテム

25年5月
仕入額25年6月
仕入額

5月

6月

盛夏アイテム

25年7月
仕入額25年8月
仕入額

7月

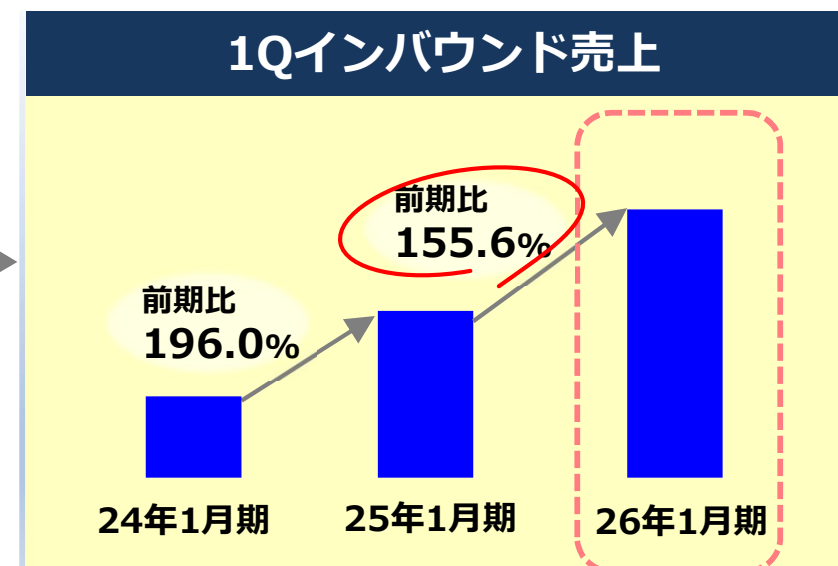
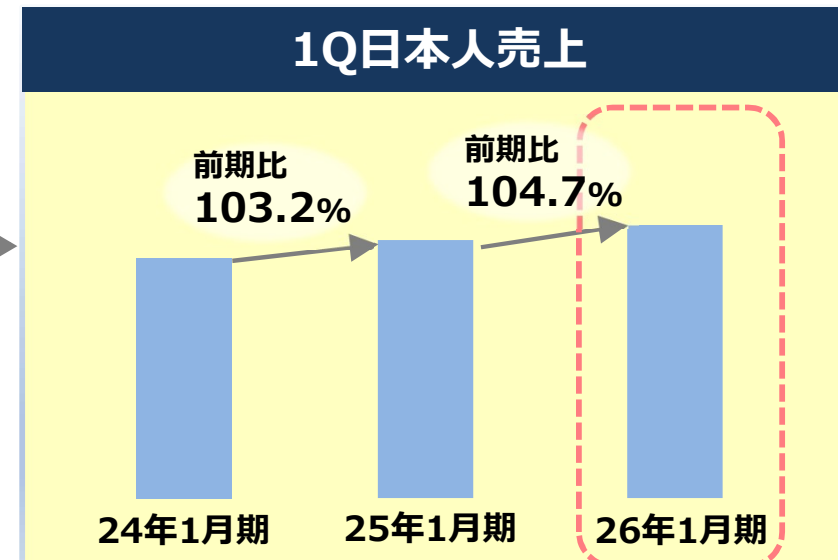
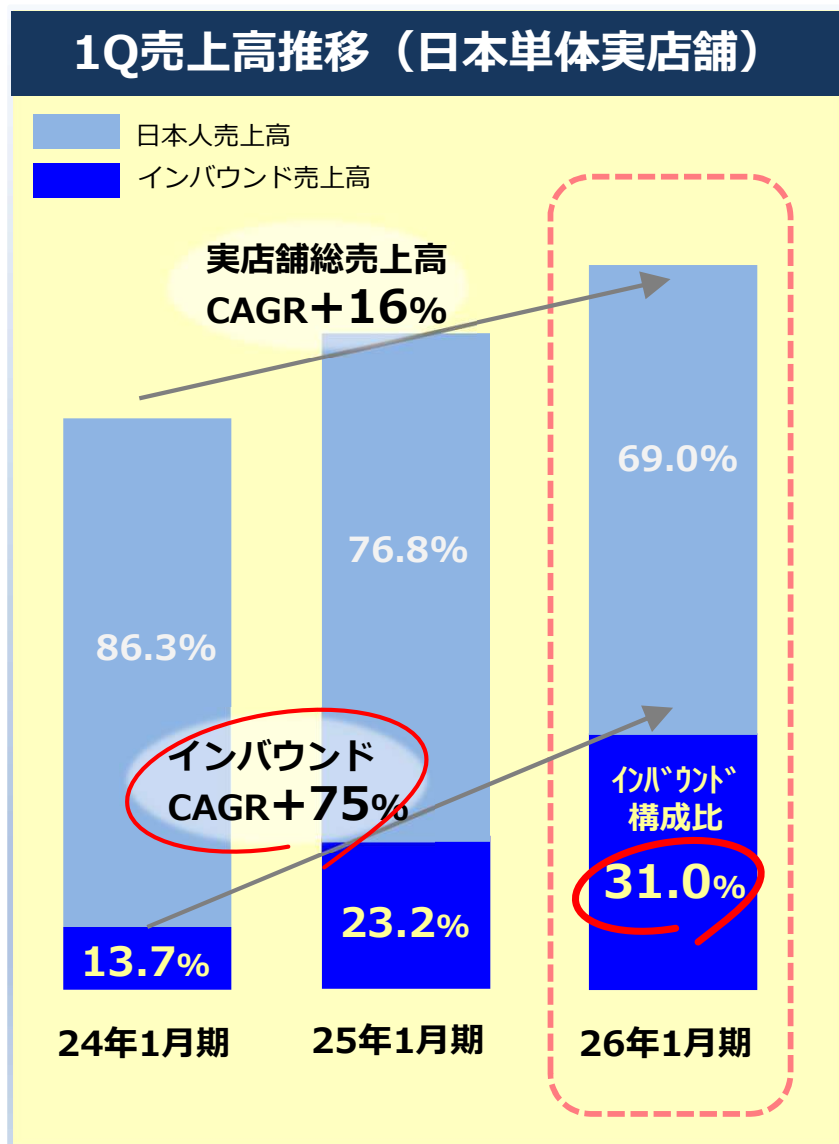
8月

26年1月期 (当期)

春夏のシーズンMDを春と夏から、春・夏・盛夏の3区分に見直し、夏場のアイテムを充実するMDへ。
その結果、1Qは春物商材が前期より少ない環境のなか売上は検討した。2Q以降は気候に合ったアイテムが充実。

2026年1月期1Q TOPIC — インバウンド売上実績 —

▶ インバウンド売上の成長が、実店舗売上高増加に牽引している（円高局面に入っても継続増加）



2026年1月期1Q TOPIC — 路面出店強化（インバウンド） —

《 1 Q路面店出店実績 》

STUDIOUS TOKYO表参道店

2月28日OPEN

北京、深圳、広州
香港、NYに次ぐ
ST TOKYO屋号の
東京旗艦店舗

GOOD EDITION原宿店

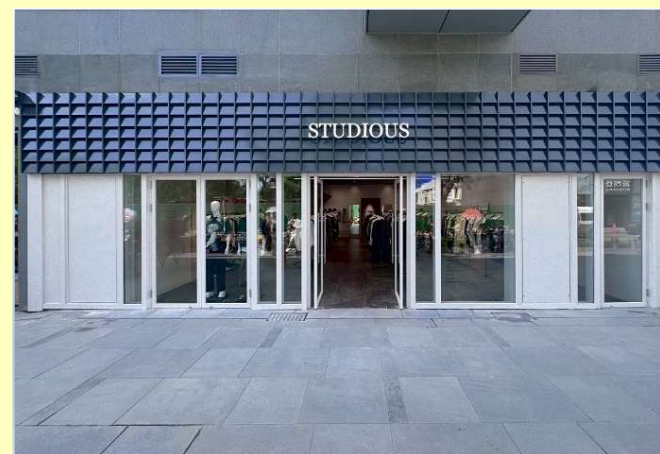
2月28日OPEN

TOKYOBASE初
スーベニア業態
の旗艦店

RITAN 青山店

2月21日OPEN

TOKYOBASE初の
レディース単独業態
旗艦店

STUDIOUS 北京店

4月18日OPEN

面積小型化による
ミドルリスク型
検証店舗の1号店

2026年1月期1Q TOPIC — 路面出店強化（インバウンド） —

《 2 Q路面店出店予定 》

6月予定

THE TOKYO銀座店

GOOD EDITION
京都店

STUDIOIOUS上海店

CONZ上海店

7月予定

CONZ南堀江店

8月予定

THE TOKYO名古屋店

CONZ W原宿店

STUDIOIOUS香港店

2026年1月期1Q TOPIC — 香港事業の会計変更 —

▶ 香港法人の会計を店舗収益基準にした事で現地法人利益が増加し、連結決算上での減税効果あり

※香港法人に繰越欠損金あり、その後も香港の法人税率16.5%での課税

25年1月期1Q

日本単体会計（香港事業部分）

●店舗収益基準

売上高	144,909 千円
営業利益	32,132 千円
営業利益率	22.2 %

香港法人会計

●手数料売上

売上高	72,470 千円
営業利益	6,080 千円
営業利益率	8.4 %

26年1月期1Q

香港法人会計

●店舗収益基準

【香港法人前期比】

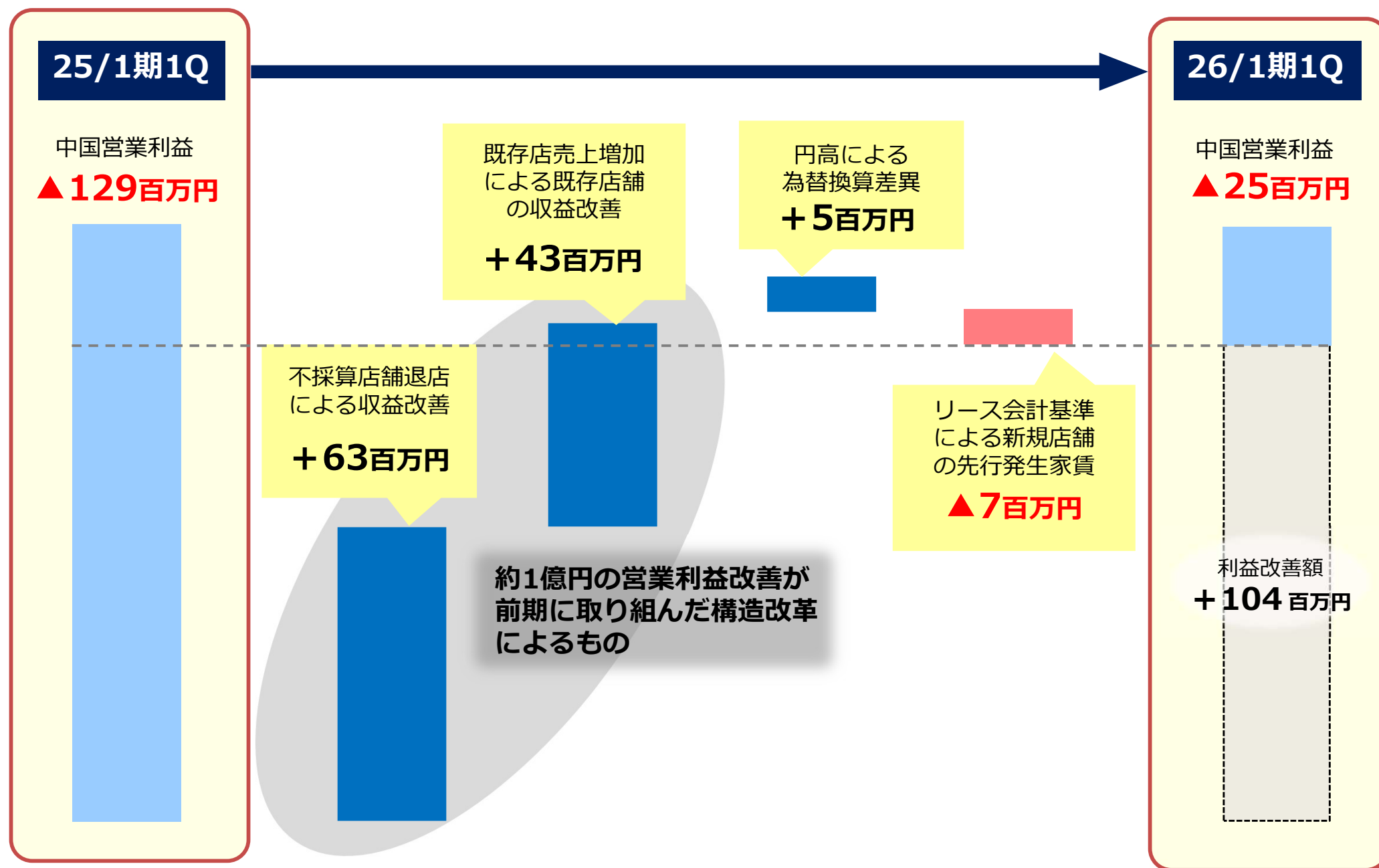
売上高	142,991 千円	197.3%
営業利益	26,262 千円	431.9%
営業利益率	18.4 %	+10.0 P

【通期見通し】

【香港法人前期比】

売上高	560,000 千円	195.1%
営業利益	112,000 千円	933.3%
営業利益率	20.0 %	+15.6 P

2026年1月期1Q TOPIC — 中国事業の営業利益増減要因—



2026年1月期1Q TOPIC — 中国事業の再成長戦略 —

- ▶ 100坪大型店舗、一等立地(高家賃)のハイリスク・ハイリターン型から、
50坪標準店舗、業態特性に応じた立地(適正家賃)のミドルリスク・ミドルリターン型への転換

ハイリスク型既存店舗

STT北京店
(110坪)



ST上海新天地店
(80坪)



ST上海太古里店
(110坪)



STT広州店
(80坪)



今期契約満期 ⇒ ミドルリスク型へ

移設

移設

減坪

ST新北京店



3月OPEN (46坪)

既存店舗は
8月契約満期退店

ST新上海店



6月OPEN (45坪)

既存店舗は
6月契約満期退店

ST上海太古里店



8月RENEWAL (60坪)

家賃の高い1F返却
2Fのみで展開

検討中

ミドルリスク型既存店舗

STT深圳店



PT上海店



営業継続

ミドルリスク型新規店舗

CONZ上海店



6月OPEN (48坪)

2026年1月期1Q TOPIC — 中国事業CONZ展開開始 —

- ▶ CONZの日本店舗（原宿・新宿）が中国人インバウンド層に大人気
- ▶ ストリートファッションSHOPが集まる上海の富民路にCONZ海外1号店出店（6月）



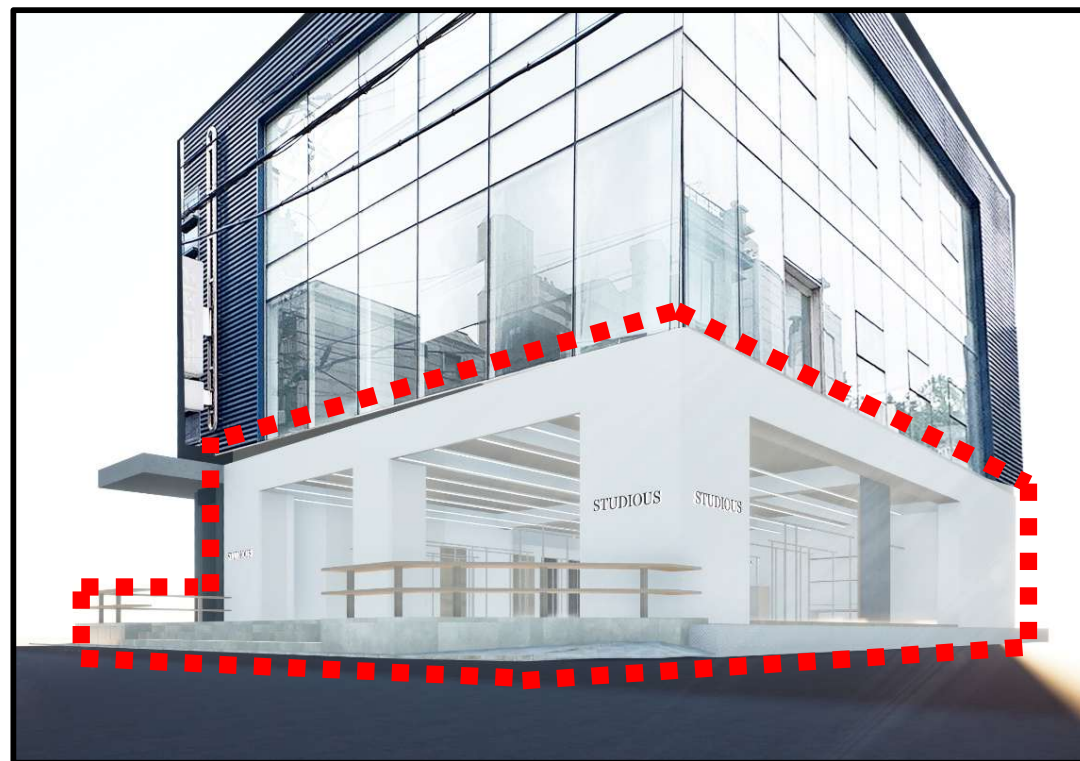
2026年1月期1Q TOPIC — 韓国事業スタート ⇒ 好調につき増床拡大 —

- ▶ 3月にソウル1号店をオープン ⇒ 2か月目(4月)で設立開業費用を回収し、現地法人の黒字化達成
- ▶ 好調につき隣の区画を増床(6月) ⇒ 30坪から60坪、MENS店舗からMENSとWOMENS複合店へ

【25年3月～】 30坪 MENSのみ



【25年6月～】 60坪 MENS/WOMENS複合店へ



MISSION

TOKYO BASE

日本発を世界へ

日本発を世界に発信するファッションカンパニーを創造するとともに、
事業拡大を通じて、顧客・従業員・取引先・株主の幸せと夢を実現します。

